



東京歯科大学広報



新生を代表して「宣誓」を行う長門 慶さん：平成26年4月5日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール

平成26年度東京歯科大学入学式

平成26年度東京歯科大学入学式が、平成26年4月5日(土)午後1時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて行われた。

式には、金子 譲理事長、井出吉信学長をはじめ法人役員、大学役職者、教職員、父兄会役員及び同窓会役員、新生保護者が出席して挙行された。



2014年4・5月

266号

本号の主な内容

・平成26年度東京歯科大学入学式	1
・法人評議員の改選	6
・平成26年度大学院歯学研究科入学式	17
・一色泰成名誉教授が瑞宝小綬章を受章される	18
・平成26年度歯科衛生士専門学校入学式	27

式は、佐藤 亨学生部長の開式の辞で始まり、国歌を斉唱した後、河田英司教務部長が新生128名と第2学年の編入学生15名を一人ずつ呼名して紹介が行われた。

次いで井出学長から訓辞、金子理事長から祝辞が述べられ、新生代表の長門 慶さんが凛とした宣誓を行い、新生代表の土屋 絢さんに徽章が手渡された。土屋さんはスーツ左襟に徽章を着装して、会場の新生、保護者、教職員に披露した。最後は出席者全員で校歌を斉唱し、滞りなく入学式を終了した。



訓辞を述べる井出学長：平成26年4月5日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



祝辞を述べる金子理事長：平成26年4月5日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



徽章を授与され披露する新生代表 土屋 絢さん：平成26年4月5日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



訓辞に耳をかたむける新生：平成26年4月5日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



金子理事長の祝辞を聞く新生：平成26年4月5日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



入学式に臨む新生：平成26年4月5日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール

訓 辞

東京歯科大学
学 長 井出 吉信

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。東京歯科大学は皆さんを大切な仲間として心から歓迎をいたします。また、保護者の皆様、御入学のお慶びを拝察し、お祝いを申し上げます。

さて、本学の教育の特色は、歯科医師としての高度な知識や技術はもちろんのこと、社会性や国際性を身につけ、人間性に優れた、良識ある知性豊かな歯科医療人を育成していくことにあります。

創立以来、120年を超えた本学は、これまでに培った豊かな実績のもとに、最先端の教育・研究・診療を行い、常にわが国の歯科医学・歯科医療を牽引しながら、新しい知識と技術を学生に教え、最新の医療を提供することで、国民から信頼される歯科医学教育機関として、社会的使命を実践していることと自負しています。

昨年、千葉・稲毛への移転から32年の時を経て、伝統の地である水道橋に戻り、本日は、このホールで行われる最初の記念すべき入学式です。移転を機に、他大学・他研究機関と積極的に交流し、学内における最先端のプロジェクト研究をさらに強化させていきたいと考えております。

社会のグローバル化が急速に進む中、国際的感覚を身につけた次世代の歯科医師を育てるために、在学中から国際的視野を養うためのプログラムの一環として、成績優秀者が海外の姉妹校で研修を行う制度を実施しています。本学は、世界に多くの姉妹校を有しており、この3月には、新たにアメリカ・タフツ大学との姉妹校を締結したところです。

皆さんにとって、これから始まる6年間は、人生の中で最も華やかで大切な時です。水道橋を学びの拠点として、勉強もクラブ活動も熱い思いで取り組み、是非充実した学生生活を過ごしてください。卒業後、必ず、東京歯科大学を卒業して良かったと思う日が来ます。

私たち教職員は自信を持って諸君たちを立派な歯科医師に育て上げることを約束いたします。そして、皆さんの中から、日本、いや世界の歯科界をリードする人材が輩出されることを期待しています。

入学おめでとう。

これをもって訓辞といたします。

祝 辞

学校法人東京歯科大学
理事長 金子 譲

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また保護者の皆様におかれましては、ひとつのご安心をなさったかと思えます。

今、学長がおっしゃったように皆さんが水道橋キャンパス移転後に迎える最初の入学式ということになります。皆さんが卒業する年は、東京オリンピックが開催される年だと思えます。私が卒業した年はちょうど前回の東京オリンピックの年でした。

今、学長がこの大学で学ぶことの意義についてお話をされましたが、私は法人の立場として、この大学がどういう性格なのか少しお話したいと思えます。皆さんは、ご両親から受け継いだ立派な遺伝子を持っていらっしゃると思います。遺伝子はDNAという化合物から出来ています。この大学も、受け継がれた

DNAによって今日があります。では、東京歯科大学の性格を創り出すDNAは何か。それは歴史によって培われたものと認識しています。ですが、DNAは持って生まれた物で、培われるものではありません。そういう意味では、今から124年前の明治23年に高山歯科医学院を創設した高山紀齋先生の意志、そしてその10年後に高山歯科医学院を引き継いだ血脇守之助先生のお考えが東京歯科大学のDNAの元になっており、それを今日、私共が引き継いでいるということになります。

高山歯科医学院が創設された明治期は、近代化に向かってあらゆる物事が進んでいった時代ですが、明治の中頃になってようやく歯科の学校ができます。それよりも前から歯科医師の国家試験が存在していましたが、歯科医師であるために学校を修了する必要はなく、自分で勉強をして試験に受ければよいという時代でした。ですから、学校が必ずしも必要ではなく、塾や講習所などの予備校が多数存在していました。

そんな時代に高山紀齋先生は、世界で最先端の米国歯科医学に追いつくために、また受験勉強ではなく体系的に知識と技術を与え、医療を職業とする人間を育成することを目的として高山歯科医学院を創設されました。10年を経て、高山先生は血脇守之助先生に学校を引き継ぎます。そして血脇先生が継承された学校は、その後の明治近代化の時代とあいまって歯科医学歯科医療の発展の原動力となって行きました。

高山歯科医学院創設から血脇先生に引き継がれるまでの10年間について、10年しか経営が持たなかったのかな、と皆さん思いかも知れませんが、それは全く違う話です。なぜかと言うと、当時は塾や講習所というものがそれなりの役割を担っているので学校での修学は必要ないとお話ししましたが、事実この10年間の間に歯科医学校として認可を受けてできた6つの学校のうち、高山歯科医学院を除いて全ての学校が途中で廃校になっているからです。学生達が学校に入学しても、途中で試験に合格したら学校にいく必要がないわけですから、途中でどんどん辞めてしまうので、学校経営が財政的に極めて厳しい時代でありました。ですから、そのような時代に10年持ちこたえたというのは非常に立派ですし、多くの学校が廃校となる一方で、学校を止めずにリレーの襷を繋げたということが、高山先生と血脇先生が、誠実かつ全力で学校継続の使命に向かっていったということなのです。これが東京歯科大学のDNAの元ではなかろうかと思うわけです。

時代は変わり120年経ちましたが、その伝統は変わりません。DNAは生命体を作る「指令書」であり、それがRNAに読まれることで目的である生命機能物質、蛋白質が作られます。本学の役割は皆さんと本学のDNAとRNAとの関係において本学が誠実に、皆さんを教育して大いに学生生活を楽しんで頂いて、立派な人間になってもらうことだと思えます。ですから、国家試験に合格して歯科医師になることは基本ですが、その上で、皆さんは学生生活を楽しんで人間として成長をしてもらいたいのです。その過程で、皆さんが過ごす時間はひとつとして無駄なことはいずれです。ただ、ほんやりと過ごすのではなく、目標を持って過ごすことが大事です。それが皆さんのRNAを本学が、そしてみなさんの立派なDNAがより皆さんを人間として向上させていこうと思っています。皆さんの6年間、もしくは編入の皆さんは5年間、皆さんと一体で過ごしていきたいと思えます。そしてなによりも大事なのは、皆さんが学長の示す教育方針を信頼することです。これは東京歯科大学の実績によるもので、社会からの評価や試験の結果だけではありません。ですので、しっかりと大学の方針を理解しながら、その中に自らを投じて積極的に学生生活を送って頂きたいと願っています。

本日は本当におめでとうございました。

宣 誓

新入生代表

長門 慶

本日ここに入学式を迎え、我々一同感激と希望に満ちあふれております。只今は、学長先生よりご懇篤なるご訓辞を賜り、伝統ある本学の誇りを胸に刻み、諸先生はじめ先輩の方のご指導の下に勉学に励み、人格の陶冶に努め、学生の本分を尽くす事を誓います。

■法人評議員の改選

平成26年3月31日をもって本法人寄附行為第20条第2項第2号、同第3号及び同第4号に規定する評議員が任期満了を迎えるにあたり、平成26年3月27日(木)に開催した第687回理事会において下記の方々が評議員に選任された。評議員委嘱期間は平成26年4月1日から平成29年3月31日までの3年間となる。

今回の改選では、これまで第3号評議員をお務めいただいた江崎梅太郎評議員、岡 英男評議員、片倉恵男評議員、小室 甲評議員、高橋宏光評議員、三宅直晴評議員、第4号評議員をお務めいただいた浪貝一良評議員が任期満了により退任された。

【第1号評議員(歯科衛生士専門学校長)】(定数1名)

井 上 孝

※寄附行為第20条第2項第1号に規定する評議員(東京歯科大学歯科衛生士専門学校長)は寄附行為規定役職者の任期となるため、このたびの改選には該当しない。

【第2号評議員(本法人職員)】

石 井 拓 男 一 戸 達 也 井 出 吉 信
加 藤 靖 明 菅 沼 弘 春 相 馬 克 巳
田 崎 雅 和 西 田 次 郎 水 野 利 彦
矢 島 安 朝 山 本 一 郎

【重任11名】

【計 11名】

【第3号評議員(本学同窓生)】

青 木 榮 夫 浅 野 薫 之 熱 田 俊之助
上 田 祥 士 江里口 彰 鹿 島 隆 雄
金 子 讓 久保田 晃 澁 谷 國 男
関 泰 忠 中 川 勝 洋 平 井 泰 征
薬師寺 仁 矢 崎 秀 昭 吉 田 昊 哲

【重任15名】

加藤木 健 小 池 修 鳩 貝 尚 志

【新任 3名】

【計 18名】

【第4号評議員(学識経験者)】

五十嵐 治 千 葉 光 行 水 野 嘉 夫
村 山 利 之 森 原 久 樹 吉 澤 信 夫

【重任 6名】

齊 藤 力 高 橋 哲 夫 田 中 葉 子
藤 原 元 幸

【新任 4名】

【計 10名】

■図書館長就任のご挨拶

櫻井 薫

このたび4月より本学の第30代図書館長を拝命し、大変光栄に存じます。歴史を振り返りますと、明治23年(1890年)1月に高山紀齋先生が第1代図書館長として就任されてから、血脇守之助先生、花澤鼎先生、遠藤至六郎先生、大井清先生、米澤和一先生、杉山不二先生、三崎鈔郎先生、津崎孝道先生、関根永滋先生、金竹哲也先生、鈴木芳太郎先生、堤璋二先生、見明清先生、山村武夫先生、坂田三弥先生、鈴木和男先生、高江洲義矩先生、黒柳錦也先生、奥田克爾先生、岸正孝先生、薬師寺仁先生、木崎治俊先生、山田了先生、松久保隆先生、26人目の私と続き、その重責を痛感いたします。

現在、30万冊を越える書籍を有する本学の図書館は、水道橋校舎新館(401.39㎡、81席、35,300冊)、水道橋校舎本館(274.36㎡、55席、6,300冊)、さいかち坂校舎(144.29㎡、30席、9,540冊)、千葉(2130㎡、136席、236,000冊)および市川(151.2㎡、20席、17,000冊)と5つの場所に分散して運用しております。その管理等は大変ですが、毎月テレビ会議を利用して、報告や協議を行い、緊密な連携をとってその業に臨んでおります。

図書館の業務としては、蔵書管理だけではありません。総務係は庶務、会計、渉外、統計、調査、保守管理等を、閲覧係は参考業務(利用者の求めに応じて情報を検索・回答する)、利用指導、貸出業務、複写業務、蔵書点検、開館日管理、広報その他教育・研究支援(文献検索法など様々な講習会を開催しております)、さらに整理係は図書・雑誌管理、分類、蔵書管理、視聴覚資料整理、目録整備(千葉校舎の教養図書約22,000冊の遡及入力を終了し、これにより所蔵登録している図書館全資料の蔵書検索が可能となりました)、その他に機関りボジトリ、TDC Net 関連業務(現在では自宅にいてもオンラインジャーナルを閲覧で

きます)、ワークスタディ奨学生の業務指導などと、多様な仕事をこなしております。

今後も職員や図書委員会の委員と協力し、より利用しやすい本学の図書館を目指して尽力する所存であります。

■講座主任教授就任のご挨拶

衛生学講座

杉原直樹

このたび、教授会のご推挙により平成26年4月1日付けをもって、衛生学講座主任教授に就任致しました。本講座は、昭和33年の大学院設置に伴い、衛生学講座(上田喜一主任教授、後に西村正雄主任教授)となり、昭和37年に口腔衛生学講座(竹内光春主任教授、後に高江洲義矩主任教授)が独立し、平成3年4月に2つの講座が再統合(高江洲義矩主任教授)され、その後を松久保隆教授が主任として展開してきました。この間、優秀な人材を多数輩出し、日本の衛生学・口腔衛生学分野の教育、研究、社会活動をリードしてきた伝統のある講座であります。このような伝統ある講座を担当させていただくことになり、身に余る光栄と存じますとともにその重責を感じています。

講座における今後の教育とくに学部教育では、知識量の膨大な衛生学・口腔衛生学分野を6年間を通した縦断的な教育の実践や効果的・効率的な講義実習を実施することにより、知識だけでなく、自分で考え自分で行動できる問題解決能力を兼ね備えた人材の育成を目指しております。研究については、従来からの疫学研究の継続と臨床疫学分野への展開に加え、応用研究とくに独自の評価系の技術を持った研究を展開すると共に、新しい基礎研究分野の開拓を目指します。現在、時計遺伝子のメカニズムについての研究に着手しており、これが講座の研究テーマとなっていくことを期待しています。さらに、衛生学・口腔衛生学は、人間を研究する学問であることから、個人の口腔

内や口腔機能を評価するだけでなく人間集団、つまり地域を評価しなくてはなりません。そのためには、教育や研究だけでなく、社会活動（地域保健活動）が重要になります。この3つをバランス良く実践し講座運営を行いたいと思っております。

今後とも何卒宜しくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

■教授就任のご挨拶



歯科社会保障学

上 條 英 之

このたび、教授会のご推挙をいただき、平成26年4月1日付けで新設の本学歯科社会保障学の教授に採用されました上條英之でございます。

私は、1983年3月に本学を卒業後、口腔衛生学講座（現衛生学講座）に大学院で4年間在籍し、その後、現在の厚生労働省に奉職し、以降27年間、厚生労働省の歯科技官として社会保障と歯科保健医療施策の推進に従事してきました。

平成22年7月からは、歯科技官の最終ポストである医政局歯科保健課長に就任し、この間、1955年制定の歯科技工法以来、56年ぶりの歯科の法律となる「歯科口腔保健の推進に関する法律」の制定や、現在、国会で審議がされている歯科衛生士法、歯科技工士法の改正、医療法改正後設定される新たな基金設置等の業務に、責任者として昨年末まで従事いたしました。

ところで本学において新たな学問として位置づけられる歯科社会保障学は急速な高齢化と経済基調の変化が進み、国民の社会保障への関心が高まる中、これからの歯科医師にとって非常に重要な位置づけがされるべき大事な学問領域であることは否定の余地がありません。

また、私がこの学問に対する教育と研究について考えていることは、研究面では医療保険分野を中心に歯科保健医療施策の推進に必要な基礎研究を進め教育面では歯科医療機関を将来開設する

歯科医師に必要な医療保険のみならず福祉、生活保護、年金や労働の基礎知識を海外事業も踏まえ伝授することが必要であると認識しています。

将来、日本の歯科界を背負う国民から期待される歯科医師を育てられるよう努力できればと考えておりますので、どうか皆様、よろしく願いたします。

■教授就任のご挨拶



市川総合病院泌尿器科

中 川 健

本年度より東京歯科大学教授・同市川総合病院泌尿器科部長を拝命いたしました。

私は昭和63年に慶應義塾大学を卒業し、泌尿器科学教室に入局しました。現市川総合病院泌尿器科ならびに埼玉医科大学腎臓病センター開設のお手伝いをさせていただいた後、英国オックスフォード大学移植外科にResearch&clinical fellowとして留学しました。留学中はSir Peter J Morris教授の下、腎移植時虚血再灌流障害と慢性拒絶反応に関する基礎研究に従事し、帰国前1年間は医師免許の交付も受け、外来や献腎移植の臨床業務にも携わることが出来ました。帰国後は荻窪病院を経て、慶應義塾大学に帰室、この春までは、泌尿器科准教授と血液浄化センター副センター長を兼務しておりました。腎移植の臨床、研究をライフワークとし、最近では我々の発表した最適化プロトコルが本邦腎移植免疫抑制療法の基本となりつつあります。また、20年以上前に市川総合病院で始めさせていただいた泌尿器腹腔鏡手術は、本邦パイオニアの一人として、あらゆる手術を行ってきました。特に、副腎腫瘍と前立腺癌手術では、術式の確立から携わり、学会でのライブ手術からアジア最多症例数を経験することが出来ました。近年は、前立腺肥大症に対する経尿道的バイポーラ核出術(TUEB)の機器ならびに術式を開発し、本邦100施設以上で採用していただき、海外国際学会でのライブ手術で紹介することも

きました。

今後は、東京歯科大学ならびに同市川総合病院の発展に誠心誠意努力してまいる所存です。よろしくお願ひ申し上げます。

■教授就任のご挨拶



市川総合病院
リプロダクション
センター（産婦人科）

吉田 丈 児

この度、教授会の御推挙により、平成26年4月1日付で市川総合病院リプロダクションセンター教授と同センター長を拝命いたしました。私は昭和59年に慶應義塾大学医学部を卒業すると同時に産婦人科学教室に入局しました。大学では周産期管理や胎児超音波検査などの研究をしておりました。神戸海星病院への出張の後、本学市川総合病院産婦人科に助手として着任し、生殖医学や体外受精・胚移植を本格的に学び、その後、聖母病院産婦人科部長、日本鋼管病院産婦人科部長を経て、平成18年から当院に准教授として勤めております。

当院の不妊治療には長い歴史があります。不妊がまだ病気と考えられずに治療対象ではなかった頃から診療を開始し、昭和59年には日本で2例目の体外受精・胚移植での妊娠に成功し、平成元年には凍結・融解胚での妊娠に日本で初めて成功しています。そして平成14年には「カップルを診察する」というコンセプトから泌尿器科と婦人科の不妊部門が統合されてリプロダクションセンターが開設されました。

歯科大学付属として唯一の総合病院の中の不妊センターとして、歯科や泌尿器科そして各科との連携を大切に、診療・教育・研究をすすめて、長い歴史と輝かしい業績とを継承して、微力ではございますが、市川総合病院ならびに東京歯科大学の発展のために邁進する所存でございます。今後とも、ご指導、御鞭撻のほどをよろしくお願ひ申し上げます。

■講座主任教授就任のご挨拶



薬理学講座

笠原 正 貴

このたび、教授会のご推挙により、平成26年5月1日付けをもちまして、薬理学講座主任教授を拝命致しました。身に余る光栄ではありますが、その責任の重さを強く感じております。私は本学で働くにあたり、「人のために働くことのできる志のある歯科医師を育成する」を基本方針として、また、「自分に何を求められているのか」を常に自分に問い、人のために自分がなすべき職務を全うしたいと考えております。

私は平成7年に本学を卒業した後、歯科麻酔学講座金子 譲教授、一戸達也教授のご指導のもと臨床、教育、研究に携わってまいりました。平成16年には、上海中医薬大学で漢方薬を学ぶ機会をいただきました。また平成23年には、慶應義塾大学医学部医化学教室末松 誠教授のもとで、文部科学省グローバルCOE「In vivo ヒト代謝システム生物学拠点」の特任講師として、「麻酔薬と脳グルコース代謝」、「低酸素モードの肝臓エネルギー代謝」について研究を行ってきました。平成25年には、慶應医学部薬理学教室の非常勤講師として、学生教育にも参画いたしました。薬理学は基礎科目の中でも最も臨床に近い学問の一つです。私は、これまでに学んで参りました歯科麻酔学や薬理学、代謝学に関する知識と経験を活かし、臨床の立場からの視点を加えた、臨床につなげていく薬理学教育と研究を行ってゆきたいと考えております。本学と薬理学講座の更なる発展のために、また本学の学生、大学院生のために、専心努力してゆく所存です。なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願ひ申し上げます。

■准教授就任のご挨拶



有床義歯補綴学講座

石崎 憲

平成26年4月1日付で有床義歯補綴学講座准教授を拝命いたしました。私は平成5年に歯科補綴学第一講座に入局し、溝上隆男教授、櫻井 薫教授に師事してまいりました。これまでの私の主たる研究は、メカニカルストレスに対する義歯床下粘膜の感覚受容細胞の動態を検索するものであり、当講座の後続研究として特殊な形態の無口蓋義歯の開発まで発展させました。現在は顎顔面補綴学分野へ研究の場をシフトし、三次元工学技術の本分野へ導入の可能性を探求する研究を行っており、今後は本学のFab labの設立にも積極的に参加していきたいと考えております。

教育に関しましては、平成18年の講座統合により総義歯学に加え局部義歯学も担当するようになりました。今後は更に顎顔面補綴学を加え、これまで諸先輩方が築いてきた一流の教育機関としての礎を継承するため、補綴学分野において強固な教育体制を構築していきたいと考えております。

また、平成21年にはカリフォルニア大学への留学の機会に恵まれ、顎顔面補綴治療の研鑽を積み重ねて頂きました。カリフォルニア大学は全米中から顎顔面欠損患者が集まる世界でも有数の顎顔面補綴治療機関であり、豊富な症例数と体系付けられた研修システムを経験することができました。

今後、我が国では口腔がん患者数の増加が予想されており、それに伴う術後の重度機能障害に対応可能な顎顔面補綴医の育成も急務となっております。そのニーズに応えるべく、平成24年に千葉病院と市川総合病院において顎顔面補綴外来をスタートさせ、文部科学省の事業であるがんプロフェッショナル養成基盤推進プランに全国で唯一となる顎顔面補綴医育成コースを設置いたしました。今後は、顎顔面補綴治療を本学の特徴の1つと位置づけられるまで発展させ、患者のQOL向上、教育現場へのフィードバック、後進の育成に邁進していきたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

■准教授就任のご挨拶



社会歯科学研究室

四家 秀雄

此の度、社会歯科学研究室の准教授に就任致しました四家秀雄です。昭和51年に本学を卒業し平成2年3月まで解剖学講座の教職員をしていましたが、平成2年4月から平成24年9月まで厚生労働省の指導医療官をしていました。平成24年10月からは、群馬県多野郡上野村のへき地歯科診療所管理者として平成26年3月まで勤めました。平成25年11月から社会歯科学研究室の非常勤講師となり、東京歯科大学3病院の診療録適正化に向けた仕事に携わりました。

久しぶりに大学に戻り、あまりの状況の激変に戸惑うばかりです。本学の歯科医師国家試験の合格率が3年連続でトップを維持していることは大変心強く、その学生の教育に係るということは極めて責任が重大であると考えています。社会歯科学は保健、医療、福祉、介護並びに医療倫理と社会保障全般に及ぶ国民生活の根幹に係る重要な学問です。特に、医療に携わる環境で大切な診療録をどのように管理するかは極めて重要であります。現状は様々な要因により問題が山積しています。何が原因であるかを究明し、この状況の改善と発展に努力する所存です。保険診療のルールを大学のカリキュラムに実践的に取り入れている所は少ない中、本学は青本をテキストに導入し保険請求の仕組みや流れを体験させています。診療録は本来、保険診療の要件を熟知したうえで手書きで作成されるべきと思います。残念ながら、現実はレセコンからの安易なものが蔓延し、事実と異なる極めて信頼を損なう状況となっております。学生のうちから保険診療の基本について、また将来の臨床現場で起こる様々なトラブルや疑問について提示し、どの様に対処し考えたら良いかを一緒に共有していきたいと思っております。

微力ではありますが、本学の発展のために頑張っておりますので今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

学内ニュース

■平成26年度歯科医師臨床研修開始式

平成26年度の歯科医師臨床研修開始式が3病院において開催された。

〔水道橋病院〕

水道橋病院では、平成26年4月1日(火)午後1時より、水道橋校舎本館第2会議室において行われた。杉戸博記水道橋病院研修管理委員長による開式の辞に続き、矢島安朝水道橋病院長より臨床研修歯科医15名全員に辞令が交付された。続いて、矢島水道橋病院長による訓辞があり、無事に式を終了した。

○水道橋病院臨床研修歯科医(15名)
プログラムA(7名)

プログラムB(8名)

〔市川総合病院〕

市川総合病院では、医科と歯科の合同による臨床研修開始式が、平成26年4月1日(火)午後2時30分より、市川総合病院第2・3会議室で開催された。当日は、西田次郎市川総合病院長から辞令交付があり、引き続き、西田市川総合病院長、小板橋俊哉研修管理委員長、片倉朗歯科研修管理委員長からご挨拶があり、無事に式を終了した。



訓辞を述べる矢島水道橋病院長：平成26年4月1日(火)、水道橋校舎本館第2会議室

○市川総合病院臨床研修医・臨床研修歯科医
医科(8名)

歯科(7名)

〔千葉病院〕

千葉病院では、平成26年4月1日(火)午後2時より、千葉校舎歯科臨床研修医室において、平成26年度歯科臨床研修開始式が行われた。

井上孝千葉病院長より研修歯科医を代表して池田一洋研修歯科医に辞令が交付され、その後、井上千葉病院長による訓辞、石崎憲研修管理委員長の挨拶が行われ、式は無事終了した。

○千葉病院臨床研修歯科医(61名)
プログラムA(39名)



辞令を交付する西田市川総合病院長：平成26年4月1日(火)、市川総合病院第2・3会議室

プログラムB(22名)

■1年生初日・2年生編入生合同オリエンテーション実施

平成26年4月1日(火)午後1時より、新入生を対象としたオリエンテーションが、さいかち坂校舎第1講義室において実施された。

井出吉信学長より「新入生に寄せて」、一戸達也副学長より「学生生活の心構え」、河田英司教務部長より「教務部の立場から」、佐藤 亨学生部長より「学生部の立場から」、橋本正次教養科目協議会幹事より「教養の立場から」として概要説明が行われた。

続いて、学生証添付用の顔写真の撮影を行い、オリエンテーションは滞りなく無事終了した。



オリエンテーションで沢山の教材を手にする新入生：平成26年4月1日(火)、さいかち坂校舎第1講義室

■平成26年度第1学年フレッシュマンセミナー開催

平成26年4月2日(水)、さいかち坂校舎において、平成26年度第1学年フレッシュマンセミナーが開催された。

はじめに、加藤哲男第1学年主任の司会により教養系教員および第1学年主任・副主任の紹介が

あり、つづいて、望月隆二教務副部長よりセミナーの概要説明が行われた。

次に、橋本正次教養科目協議会幹事からレポートの書き方についての講義が行われた後、8グループ2班に分かれてグループ討議と討議内容の発表を行い、午前中のプログラムを終了した。

午後は、午前中のフィードバックを受けてから、遠山光則客員教授による生物学の講義が行われた。その後、午前中とは違うメンバーで8グループ2班に分かれ、グループ討議と討議内容の発表、フィードバックが行われた。

新1年生は、新入生の心構えについて、ノートの取り方や討議内容のまとめ・発表の仕方、レポートの作り方について学び、友人と協力しながら緊張した面持ちで課題に取り組んでいた。



橋本教養科目協議会幹事からのフィードバックを受ける新入生：平成26年4月2日(水)、さいかち坂校舎第1講義室

■第121期生(平成26年第5学年)登院式

平成26年4月16日(水)午前9時30分より、水道橋校舎本館第2講義室において、第121期生(平成26年度第5学年)139名の登院式が厳かに挙行された。式は佐藤 亨臨床教育委員長の司会のもと



第121期生を代表して宣誓を行う谷口修一郎君：平成26年4月16日(水)、水道橋校舎本館第2講義室

とに進められた。はじめに、矢島安朝水道橋病院長と井上 孝千葉病院長が訓示を述べ、次いで、列席者の紹介があり、列席者からそれぞれ登院生に対して挨拶が行われた。

引き続き登院生を代表して谷口修一郎君が宣誓を行い、式は滞りなく終了した。

第121期生は今までに学んできた授業や課外活動、総合学力試験や共用試験を合格していく中で習得した、知識・技能・態度を存分に発揮し登院実習に臨むべく、充実した表情で訓示を聞いていた。

■歯科医師国家試験問題等の現状把握のための教員オンラインテスト

平成26年4月19日(土)、26日(土)水道橋校舎本館第1講義室において、歯科医師国家試験問題等の現状把握のための教員オンラインテストが開催された。基礎系・臨床系部門に所属する教員を対象に「教育職員が、歯科医師国家試験問題等を理解することにより、自身の分野だけでなく、幅広い分野の出題傾向・状況を把握し、教育・指導に資する。」という目的で実施された。

年度初めの多忙のところ、両日合わせ153名もの教員(対象者ほぼ全員)が受験した。



真剣な表情で受験する教育職員：平成26年4月26日(土)、水道橋校舎本館第1講義室

■千葉病院ロビーイベント開催

平成26年4月19日(土)午後2時より、千葉病院1階待合ロビーにおいて、千葉病院ロビーイベント「栄養学と歯科のコラボ」と題した講演会が開催された。

はじめに、歯科矯正学講座の茂木悦子病院教授より「おいしく食べるためには・・・」と題した、歯科と食事との関わりについての講演が行われた。

続いて、元千葉県立保健医療大学栄養学科の杉崎幸子助教より「ご存知でしたか?太巻きずしは千葉生まれ!」と題した、郷土料理を中心とした食文化に関すること、太巻きずしの作り方についての講演が行われた。

参加者は熱心に講演に耳を傾け、大変有意義なイベントとなった。



イベント終了後の記念写真：平成26年4月19日(土)、千葉病院1階待合ロビー

■第13回試験問題ワークショップ

平成26年4月20日(日)午前9時30分より、水道橋校舎本館13階において、第13回試験問題作成に関するワークショップを共用試験CBT問題作成のためのアドバンス・ワークショップとして、東京医科歯科大学から荒木孝二教授、福岡歯科大学から坂上竜資教授を講師に迎え開催した。

本ワークショップは、教員個々の問題作成・管理能力の向上を図り、ひいては、本学における学生の公正な学習評価のより一層の充実を目指し、定期的の実施している。

今回は、平成22年度に開催された第8回と平成23年度に開催された第10回に引き続き、平成17年度から正式実施されている医療系大学間の共用試験におけるCBT問題(タイプA、多選択肢順次解答2連問(L)、順次解答2連問(W)、順次解答4連問(Q))の作成方法の理解を深めることを目的としたものであった。

はじめに、共用試験の概要と問題の基本的な作成方法、問題タイプ別の作成方法、注意点等について説明を受けた。次に問題作成のスキルアップを目指し、5グループに分かれて、事前に個人で作成してきた問題に対して、個人およびグループでブラッシュアップを行った。さらにグループ毎にブラッシュアップした問題について発表し、全

体で各グループの発表に関して意見を出し合った。

当日は教育職員33名が出席し、講師の先生方も交えて活発な意見交換が行われ、最後に、受講者に修了証書が授与され、午後5時50分に盛会の内に終了した。



全体発表に向けて問題をブラッシュアップしているグループ討議の様子：平成26年4月20日（日）、水道橋校舎本館13階 第7セミナー室

■第132回歯科医学教育セミナー開催

平成26年4月21日（月）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第132回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「新年度の教育体制について」と題し、一戸達也副学長、河田英司教務部長から説明が行われた。

はじめに、一戸副学長から、本学の平成26年度入学試験の講評が、他大学歯学部の入試状況と併せて行われた。続いて、第107回歯科医師国家試験について、新卒者、既卒者も含め全国歯科大学で合格率トップという輝かしい結果を残したことに触れつつも、油断することなく常に教育活動の改善を図るべく、総合学力試験と国家試験結果をもとに試験領域ごとの正答率や出題方式傾向を比較・分析された結果について説明がなされた。



説明する河田教務部長：平成26年4月21日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

続いて、河田教務部長より、「26年度の教育方針－教職員一丸となって情報を共有－」と題し、今年度の講義・実習や国家試験対策の取り組みに関する方針が掲げられた。次に、カリキュラム編成上の変更点、昨年度の出席状況、学生による授業評価等の説明があり、各学年の科目試験と総合学力試験の比較・考量等がなされた。

当日はテレビ会議システムで千葉校舎にも中継された。今年度の教育についての方針が示されるということで、多くの参加者が集まり、予定時間を大幅に超過するほど質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。

■平成26年度新入生学外セミナー

今回で16回目を迎える平成26年度新入生学外セミナーが、5月7日（水）から5月9日（金）までの2泊3日の日程で、木更津市にある「かずさアカデミアパーク」で行われた。

本セミナーは「歯科大学1年生としての学習の心構え」、「How to learn, how to study」、「新入生同士の親睦」の3点を目的として開催されている。

新入生は5月7日（水）、定刻通りに午前9時10分にさいかち坂校舎を出発し、10時15分頃にかずさアカデミアパークに到着した。

午前10時40分から開講式、11時からは「人間力を磨こう！」と題した講演を桜美林大学特任教授・名古屋外国語大学客員教授の永田順子先生からご指導をいただいた。昼食後、平田創一郎教授からアイス・ブレイキングということで「コンセンサスゲーム」、午後3時30分からは、橋本本次教養科目協議会幹事からグループ討議の説明、午後4時から1回目のグループ討議に入った。グループ討議の合間には3グループごとに記念写真を撮影した。

グループ討議は、新入生を12のグループに分け、与えられたテーマに基づきグループ対抗で実施される公開ディベートの情報収集等が行われた。なお、初日と2日目共に今回から夕食後の午後8時から9時についてもグループ討議が行われた。午後6時30分からは、テーブルマナー講習会を兼ねた夕食会があり、フォーク、ナイフの使い方や食事のエチケットなど細かなマナーについての説明を受けた。また、テーブルに同席した教

職員やクラスメイトと食事を楽しんだ。

2日目の5月8日(木)は、午前9時からグループ討議を行い、午前11時10分より金子 譲理事長による「東京歯科大学の歴史」と題した講演が行われた。昼食後に3回目のグループ討議を行い、グループ発表に向けた資料収集や発表の内容が話し合われた。午後5時20分より、本学卒業生の木津康博先生から「臨床医から新生児へのメッセージ(歯科医療の現場から)」と題した講演が行われた。その後、午後6時30分から懇親会が行われ、木下英明



真剣な表情で講演を聞く新生児：平成26年5月7日(水)、かずさアカデミアパーク



テーブルマナーの席で井出吉信学長(右)と懇談する新生児：平成26年5月7日(水)、かずさアカデミアパーク



活発な意見交換が行われたグループ討議：平成26年5月8日(木)、かずさアカデミアパーク

第1学年副主任から校歌の指導が行われ、全員が校歌を合唱した。終盤にはビンゴゲームで盛り上がり、教職員や友人と親睦を深めた。懇親会終了後、新生児たちは翌日の公開ディベートに向けて、夜遅くまで準備に取り組んでいた。

最終日の5月9日(金)は、午前9時から3会場に分かれ公開ディベートを行った。各会場とも例年以上に白熱した討論が展開され、時間の延長をした会場もあり充実した公開ディベートとなった。

最後に一戸達也副学長による閉講の辞により、



懇親会会場で先生方と親睦を深める新生児：平成26年5月8日(木)、かずさアカデミアパーク



グループ討議でまとめた意見をわかりやすく発表する新生児：平成26年5月9日(金)、かずさアカデミアパーク



グループ討議でまとめた意見をわかりやすく発表する新生児：平成26年5月9日(金)、かずさアカデミアパーク

3日間に亘るセミナーを終了した。帰路には千葉病院、市川総合病院に立ち寄り、病院の概要説明を受け、スタッフの先導により病院施設を見学して、新入生学外セミナーの全日程を終了した。

■平成26年度 臨床研修歯科医師研修会開催

平成26年5月17日(土)10時30分より、水道橋校舎新館第2講義室において、3病院の全臨床研修歯科医師を対象とした平成26年度臨床研修歯科医師研修会が開催された。

当研修会は、大久保満男日本歯科医師会会長による「国民の健康を守るための日本歯科医師会の役割」と題する講演を中心に、本学3病院の臨床研修歯科医師に対して、日本歯科医師会の役割と日本歯科医師会第6種会員の概要の説明等について研修が行われた。

はじめに、本学佐藤憂子助教による「患者接遇の基本」と題する講演が行われ、続いて、大久保日本歯科医師会会長の講演が行われた。さらに村上恵一日本歯科医師会専務理事より、日本歯科医師会第6種会員についての説明があった。

その後、矢崎秀昭東京歯科大学同窓会会長の挨拶に続いて、小林慶太東京歯科大学同窓会理事より、本学同窓会の開催する研修歯科医への学術セミナーに関して説明があり、盛況のうちに無事に研修会を終了した。



講演される大久保日本歯科医師会会長：平成26年5月17日(土)、水道橋校舎新館第2講義室

■第133回歯科医学教育セミナー開催

平成26年5月26日(月)午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第133回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「アメリカの歯科事情 ～歯学教育の観点から～」と題し、ウェストバージニア大学の駒林 卓先生より説明

がなされた。

今回の講演の目的として日米間の歯科事情の違いを正確に理解し、歯科医師としてのご自身の社会貢献と役割分担、短期/中期/長期の具体的な目標を見つけて欲しいと冒頭に挨拶をいただいた。

はじめに、アメリカには56の歯科大学があり、公立が約半数を占めており、全ての大学はADA(アメリカ歯科医師会)から派遣された調査委員会より教育水準を試験され、認定を受けていると説明があった。ADAと日本の歯科医師会との主な違いは、全員が主体的に政策を立案、実施をしているところであるということであった。そして、治療の面では、易しい症例は一般歯科医、難症例は専門歯科医が行うという症例の分業が行われており、自分のできる範囲で精一杯の治療をして、出来ないことは専門歯科医にお願いできるという見極めの診断能力も備えている関係で、歯科に対する患者満足度は高いという紹介があった。

次に、アメリカで歯科医学を学ぶには、超難関の入学試験に合格した者のみが進学することが出来ると説明があった。教育課程は4年間で構成されており、1～2年間は基礎系科目と臨床系科目の座学と実習、その後の2年間は臨床実習が中心ということであった。教官監督下の学生による直接の治療が行われており、2年間の臨床実習の間に、州の歯科医師免許を取るまでに日本の歯科医師国家試験に相当する試験に3つ以上合格しなくてはならないということであった。なお、学業成績のみならず人格や見識、卒業後すぐに歯科医師として役立つことも重要とのことであった。

最後にアメリカの歯科制度を患者の立場と経済学、歯科材料の見地から説明がなされた。

日本と比較して訴訟国家と歯科自由診療というところで大きな違いが感じられた。また、歯科大学に入学する学生の目的意識と専門医修得のための大学講座へ入局する際の難易度についても、違いが感じられた。診療・教育・研究面において、それぞれに制度の違いがあるが、ただアメリカの真似をすれば良いのではなく、これらを踏まえたうえで、それぞれが日本にあった目標をしっかりと立て、それに向かい日々地道な努力を繰り返すことが、大事になると感じさせられた。

当日はテレビ会議システムで千葉校舎にも中継された。多くの参加者が集まり、アメリカの歯科

制度については非常に関心が高く、予定時間が大幅に超過するほど、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



参加者と対話をしながら説明される駒林先生：平成26年5月26日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

大学院ニュース

■平成26年度 大学院歯学研究科入学式

平成26年4月7日（月）午前10時より、水道橋校舎本館大会議室において、平成26年度大学院入学式が挙行された。齋藤 淳大学院学生部長の開式の辞に続き、新入生の紹介を行った。そして、新入生代表 森田純晴君に井出吉信学長から入学許可証が授与された。続いて井出学長の訓辞、田崎雅和大学院研究科長の挨拶の後、新入生を代表して森田君が宣誓し、入学式を終了した。



宣誓を行う森田大学院生：平成26年4月7日（月）、水道橋校舎本館大会議室

■大学院新入生学外総合セミナー

平成26年度の大学院新入生学外総合セミナーが平成26年5月28日（水）から30日（金）にかけて、静岡県御殿場市にある「時之栖 Hotel Brush Up」にて行われた。

初日は、まず開講式が行われ、田崎雅和大学院研究科長から本セミナーについて、そして大学院における研究についての説明がなされた。自己紹

介の後、大学院生による英文学術論文紹介が行われた。自身が選んだ論文を発表するもので、論文の批判的評価とプレゼンテーション技術、そして質疑への応答を体験する充実した実習だった。

2日目は、歯科保存学講座の村松 敬教授より「大学院で何を学び、身につけるか？」と題した講演をいただいた。引き続きグループ討議が行われ、村松教授より「いい研究とは？」と題した課題が提示された。研究倫理や利益相反が話題となっている現在、よい研究とは何か、またこれからどのような研究を目指していくべきなのかについて、5つのグループに分かれて3時間にわたり討議を行った。討議の結果は、最終日にグループ別発表として行われ、10分の発表と5分の質疑応答が行われた。

3日目は、本学生化学講座で勤務され、現在は、(独)産業技術総合研究所の大西芳秋先生を講師としてお招きし、「時を刻む遺伝子」と題したご講演



グループ討議風景：平成26年5月29日（木）、時之栖 Hotel Brush Up

を伺った。1時間の講演であったが、先生自身の研究テーマを紹介しながら、大学院新入生に対し、熱いメッセージを送られた。

最後に修了式が行われ、学生間の交流が図れた3日間が終了した。



集合写真：平成26年5月30日(金)、時之栖 Hotel Brush Up前

トピックス

■市川総合病院 ホームページをリニューアル

平成26年4月より市川総合病院ホームページがリニューアルされた。市川総合病院ホームページは平成19年4月に一度リニューアルされて以来約7年が経過しており、掲載内容の陳腐化と更新頻度の減少が顕著であった。

西田次郎病院長就任後、病院新体制がスタートして、松井淳一副病院長(広報担当)、情報システム管理委員会と協同して、今回のリニューアルが実現した。携帯電話やスマートフォンの専用サイトも合わせて開設し、順調にアクセス数も伸びている。各部署からの掲載内容の更新依頼も多数寄せられており、市川総合病院のセールスポイント、トピックスを、ホームページを活用して患者様や地域の皆様に分かりやすくタイムリーに発信していきたいと考えている。



リニューアルされたホームページ
www.tdc.ac.jp/hospital/igh/index.html

■一色泰成名誉教授が平成26年春の叙勲において瑞宝小綬章を受章される

本学元大学院歯学研究科長一色泰成名誉教授が、平成26年春の叙勲で瑞宝小綬章を受章された。

一色名誉教授は、昭和40年より歯科矯正学教室に勤務し、同56年に教授に就任され、平成13年に定年退職となるまで、36年の永きにわたり大学の発展に寄与された。その間、矯正歯科部長、臨床教授連絡会幹事、大学院歯学研究科長等々を歴任され、学外では、厚生省歯科医師国家試験委員会委員、厚生省医療関係者審議会委員、東京矯正歯科学会会長、日本口蓋裂学会理事、日本障害者歯科学会理事、日本レーザー治療学会理事、日本全身咬合学会理事等々を歴任された。

長年にわたるこれらの功績が評価され、今回の受章となった。

■白石 建教授 ホーチミン市の名誉市民に認定される

市川総合病院整形外科教授 白石 建
 私は、平成26年4月3日(木)から5日(土)にベトナム・ホーチミン市で開催された国際脊椎外科学会開会式の場でホーチミン市から名誉市民に認定されました。

推薦者は今回の学会長であり、長年、ベトナム人脊椎外科医の育成と母国の貧しい患者さんの治療に心血を注いできたVo Van Thanh先生です。

彼は約10年前から脊椎外科医、麻酔科医、技師、

看護師、脊椎インプラントを無償で提供する医療機器メーカーなどからなるニューヨークの慈善医療団体Butterfly foundationの協力を得て、毎年12月の数日間、手術代を払うことができないベトナム各地の貧しい患者さんに脊椎の手術を行っています。私も友人の一人として何度か手術に駆け付けたことがあり、当科の青山龍馬医師、以前勤務していた山根淳一、北村和也両医師も参加したことがありました。今ではこの活動がベトナムの若い脊椎外科医にとって絶好の研修機会にもなっています。

市川総合病院整形外科では、4年前からVo Van Thanh先生が推薦するベトナム人脊椎外科医の研修を一年に2・3人ずつ引き受けています。研修後、彼らの多くは小児および成人脊椎疾患治療の指導的立場についています。彼らが来日する際の旅費や滞在費は、俳優の柴俊夫氏が中心となって設立した「子供のための柴基金」の援助を受けています。

この度の名誉市民認定は、これらの活動がベトナム当局に評価されてのことですが、私一人が受けるにはあまりにも過大な名誉であると考えております。

市川宿舎を彼らに提供して下さる東京歯科大学、毎回煩雑な留学手続きを行って下さる人事課職員の皆様、ベトナム人医師に対する整形外科スタッフの熱心な教育、病棟や手術室看護師が彼らに示す温かいホスピタリティー、ベトナム当局に私を推薦して下さったVo Van Thanh先生、そして柴基金のご支援、等々、いずれもが今回の名誉に不可欠なものでした。

この稿をお借りし、これらの人々に言葉に尽くせない感謝の気持ちをお伝えするとともに、今後



Vo Van Thanh先生（左）と白石教授（右）：平成26年4月5日（土）、ベトナム・ホーチミン市

もこの活動を続けて行くうえで、皆様のご理解とご協力を切に願う次第です。

■吉成正雄教授 日本歯科理工学会学会賞を受賞

平成26年4月12日（土）、13日（日）に開催された第63回日本歯科理工学会学術講演会（船堀タワー・東京）での総会において、歯科理工学講座吉成正雄教授が日本歯科理工学会・学会賞を受賞した。学会賞は、日本歯科理工学会の学問領域における学術研究、教育活動ならびに学会活動に大きな貢献のあった人物に贈られる賞である。

吉成教授は日本歯科理工学会の前身である歯科理工学会に1974年の入会以来、当学会を活動の中心に据えて、歯科用インプラントの表面改質や組織再生医療を目的としたScaffold材料の開発などの研究発表や講演を積極的かつ精力的に行ってきた。その研究アイデアと成果は、日本の歯科理工学の発展には欠かすことのできないものである。また、日本歯科理工学会誌の編集委員を12年、Dental Materials Journalの副編集委員長を5年、また歯科理工学教育用語集の編集にも精力的に携わって務められた。このような吉成教授の学術的業績および日本歯科理工学会への貢献に対して贈られた賞であり、益々のご活躍が期待される。



受賞した吉成教授（左）と米山日本歯科理工学会理事長（右）：平成26年4月13日（日）、船堀タワー・東京

■服部雅之教授 日本歯科理工学会学術賞を受賞

平成26年4月12日（土）、13日（日）に開催された第63回日本歯科理工学会学術講演会（タワーホール船堀・東京）での総会において、歯科理工学講座服部雅之教授が日本歯科理工学会・学術賞を受賞した。学術賞は、日本歯科理工学会の発行する日本歯科理工学会誌およびDental Materials Journalに5年間に3本以上掲載され、かつ、

日本歯科理工学会の学術講演での発表、雑誌の査読、編集活動などで顕著な功績を挙げた人物に贈られる賞である。

服部教授の受賞内容は、“チタン合金の歯科応用に関する研究／ファイバーポストを応用した支台築造に関する研究”で、機械的性質の向上および口腔内での耐食性の向上を目的としてクロムを添加したチタン合金の創製を行ってきた。また、審美修復材料として注目されているファイバー強化型コンジットレジンポストの支台築造に関する研究では、ファイバーポストによる歯質の強化に関する論文発表を行い、臨床からも注目されている。また、日本歯科理工学会の主催する学術講演会での発表も毎年行っていた。このような服部教授の学術論文の優れた内容および日本歯科理工学会への貢献に対して贈られた賞であり、益々のご活躍が期待される。



受賞した服部教授（左）と米山日本歯科理工学会理事長（右）：平成26年4月13日（日）、船堀タワー・東京

■大島光慶大学院生 第68回NPO法人日本口腔科学会学術集会で優秀ポスター賞を受賞

平成26年5月7日（水）、8日（木）、9日（金）に開催された第68回NPO法人日本口腔科学会学術集会（京王プラザ（東京都））において、オーラルメディスン・口腔外科学講座の大島光慶大学院生が発表した『口腔癌患者の唾液のメタボローム解析から腫瘍マーカーを探索する』が優秀ポスター賞を受賞した。

これは第68回NPO法人日本口腔科学会学術集会が指定した委員の厳正なる審査の結果、優秀演題として採択され演題の筆頭演者に授与されるものである。

受賞対象となった研究内容は、口腔癌細胞の代謝産物（メタボロミクス）である唾液に注目し、メ

タボローム解析により網羅的に唾液中の低分子マーカーの探索を試みた。舌癌患者と健常者から唾液を採取しキャピラリー電気泳動－質量分析（CE-MS）によるメタボローム解析により採取法や唾液保存の安定性の評価を行った。CE-MSによるメタボローム解析にて口腔癌患者で35種類の特徴的代謝産物を確認した。口腔癌組織では正常な組織と異なった代謝が行われている可能性があり唾液をバイオマーカーとして応用できる可能性が示唆された。



片倉 朗教授（左）と受賞した大島大学院生（右）：平成26年5月9日（金）、京王プラザ・東京

■山田将博講師 平成26年度（公社）日本補綴歯科学会特定推進研究論文賞を受賞

有床義歯補綴学講座の山田将博講師が、平成26年度日本補綴歯科学会特定推進研究論文賞を受賞し、平成26年5月23日（金）から25日（日）まで仙台において開催された日本補綴歯科学会第123回学術大会・総会にて表彰された。本論文賞は、前年度に歯科補綴学関連雑誌に掲載された学術論文もしくは日本補綴歯科学会学術大会で発表した後に、同年度中に海外雑誌を含む他分野の学術誌に掲載された学術論文の中から、学会が定める特定推進研究領域の発展に寄与すると認められた論文の筆頭著者に授与される。今年度は2名の受賞者に授与された名誉ある論文賞である。受賞論文は“N-acetyl cysteine as an osteogenesis-enhancing molecule for bone regeneration. *Biomaterials*. 2013 34 (26) : 6147-56.”であり、山田講師の主たる研究課題の一つであり、平成25年度学長奨励研究助成に採択されたテーマでもある、抗酸化アミノ酸誘導体の骨再生促進効果を示す研究内容である。

大規模な骨欠損における骨再生を達成するため

のアプローチの一つとして、成長促進因子の応用が注目されている。しかし、従来のリコンビナントペプチド型成長促進因子の応用では周囲軟組織に対する副作用や骨再生促進効果の不確実性が懸念されている。それら懸念を払拭する解決策の一つとして、山田講師は、細胞内に存在するアミノ酸の誘導体であり、健康食品サプリメントとして摂取されているN-acetylcysteine (NAC) に注目した。本論文はNACが骨芽細胞系列の骨形成促進効果を示すことを証明し、局所応用することで、安全かつ効果的に、大規模な骨再生を達成し得ることを示した基礎的研究である。本論文は、学術的に斬新で、安全かつ効果的な骨再生を達成するためのアプローチを提示するものであり、その高い科学性と歯科補綴学領域への学問的貢献の可能性が評価され受賞に至ったことが伺えた。硬組織形成細胞全般に作用する可能性が考えられることから、歯周組織再生や歯質再生への応用も視野に研究を継続中であり、その成果が今後期待される。



櫻井 薫教授(左)と受賞した山田講師(右)：平成26年5月23日(金)、メトロポリタン仙台

■力武春奈さん(2年) JapanOpen2014で愛馬ラメキシカZに騎乗し第3位に輝く

力武春奈さん(2年)は、平成26年4月20日(日)、つま恋乗馬倶楽部において開催された「Japan Open 2014」の第1戦、Cグレード 決勝・JAアマチュアグランプリ・中障害Bクラスにおいて、愛馬の「ラメキシカZ」に騎乗し、119.8ポイントの成績で第3位に輝いた。

現在、ラメキシカZと共に10月に開催される長崎国体への出場を目指し、忙しい学業の傍ら、各競技会を転戦しており、今後の活躍が期待される。



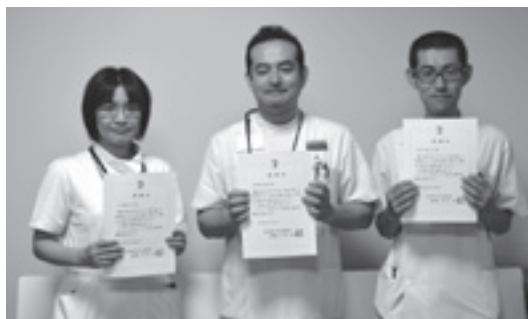
愛馬ラメキシカZに騎乗する力武さんと第3位のリボン(パステルグリーン)：平成26年4月20日(日)、つま恋乗馬倶楽部

■矢島安朝水道橋病院長より職員等へ感謝状贈呈

平成26年5月16日(金)に水道橋病院内で発生した窃盗未遂事件において、(株)学研教育出版の都竹尚美氏(取材のため来院中)及び小島桂子看護師長、相澤光博診療放射線技師、佐々木啓太診療放射線技師が犯人逮捕に協力した。その勇氣ある行動に対して、矢島安朝水道橋病院長より5月28日(水)及び6月3日(火)に感謝状及び記念品が贈呈された。



感謝状を受けた都竹氏(右)と矢島水道橋病院長(左)：平成26年6月3日(火)、水道橋校舎本館水道橋病院長室



感謝状を受けた小島看護師長、相澤診療放射線技師、佐々木診療放射線技師(左から)：平成26年5月28日(水)、水道橋校舎本館第1会議室

長期海外出張報告

■歯科理工学講座 講師 武本真治

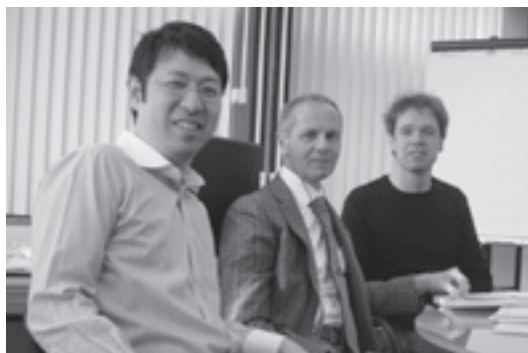
このたび、平成25年4月8日から平成26年4月7日までの1年間、オランダ王国のラドバウト大学 ナイメーヘン・メディカルセンター(Radboudumc)にて研究活動を行う機会を与えていただきました。ナイメーヘンという街は、ドイツ連邦共和国との国境に近く、世界最長のライン川の下流にあるワール川があり、歴史は古くローマ時代の城壁が残っている都市です。人口は約15万人であり、うち大学の学生およびスタッフ数が10%という、学生街です。

私が所属したDepartment of Biomaterialsは、John A. Jansen教授以下、5名の准教授および助教とポストドクおよび大学院生、インターン学生を含めて常時20～25名と大所帯の研究室でした。この研究室の特徴は、1.国際的な人材、2.医歯学のみならず、工学、理学系を修了または卒業している人材が集まっていることでいろいろな視点からの研究がなされていました。研究テーマは、ティッシュエンジニアリングの足場材料の創成がメインテーマで、高分子、セラミックス、金属やその複合材料と細胞、組織との反応を促進する手段が検討されていました。講座内での研究グループは、3～6名のポストドク、大学院生が5名の教員にそれぞれ割り振られ進めていました。また、大学院生には2名の教員が指導に当たり、材料側からのアプローチと生体組織側からのアプローチと視点を変えて研究を遂行し、大学院生同士の共同の研究も数多く行われていました。研究内容は毎週金曜日に大学院生がランチミーティングにおいて15分間の発表を行い、それに対して大学院生をはじめ教員が15～20分間質問するという学会形式で行われ、進捗状況を講座のスタッフ、大学院生が知ることができました。

私はポストドク、大学院生、インターン学生と一緒にDr. Sander Leeuwenburghと共同でナノハイドロゲルによる抗菌剤や成長因子の導入および放出制御、そのゲルを移植した際の生体反応に

関する検討グループに所属しました。私が取り組んだテーマは、表面処理したチタンインプラントの石灰化能力が骨応答性にどれくらいの影響を及ぼすかを明らかにすることでした。現在主にチタンインプラントの施されているグリットプラスト処理と酸処理と比較の対象として、*in vitro*試験で石灰化促進の表面処理の最適化を行った後、ラットの大腿骨にミニチタンインプラントを移植し、骨応答性を調べました。動物実験は、学位を取得したDr. Hamdam S. AlghamdiとDr. Jeroen J.J.P van den Beuckenと共同で行いました。Dr. Alghamdiは現在、サウジアラビア王国のKing Saud Universityの歯学部にも所属しているため、King Saud UniversityとRadboudumc(Dr. LeeuwenburghとDr. van den Beucken)との共同研究により本研究を継続していく予定です。

私はこの一年間、様々な視点から生体材料、歯科材料を見直すことができたことに加えて、異文化の人との交流により研究者としてのみならず、人間として貴重な経験ができました。このような長期にわたる海外出張の機会を与えていただきました井出吉信学長をはじめ関係各位、小田 豊教授に深く感謝申し上げます。また、出張中すべての面で力添えを頂きました歯科理工学講座の皆様重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。この出張で得た貴重な経験を本学での教育ならびに研究で役立てることができるよう、努めてまいりたいと考えております。



左から武本講師、Jansen教授、Leeuwenburgh助教

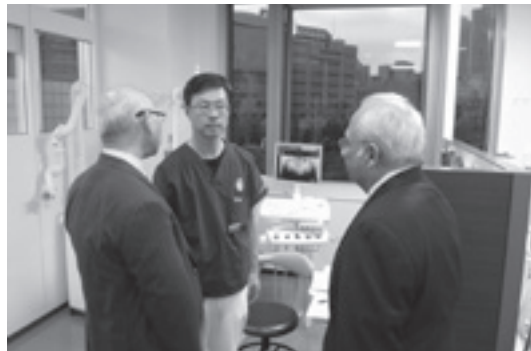
国際交流部レポート

■Tufts University 副歯学部長 Mehta教授来校

平成26年4月21日(月)、本年3月姉妹校協定を締結したタフツ大学副歯学部長のMehta教授が、表敬訪問のため来校された。金子 譲理事長、井出吉信学長の面会后、主に水道橋病院を見学していただいた。そして夕刻からペニンシュラホテルの「つる家」においてMehta教授ご夫妻をお招きし、歓迎の晩餐会が開催され、Tufts Universityの昔と今について、そして今年の夏に開催していただく Elective Studyの計画などについてMehta教授から多くのお話し、提案などをしていただいた。



井出学長（左）とMehta教授（右）：平成26年4月21日（月）、水道橋校舎本館14階



水道橋病院口腔外科にて見学中のMehta教授（右）：平成26年4月21日（月）、水道橋病院口腔外科診察室



Mehta教授ご夫妻（前列右側）をお招きしての晩餐会：平成26年4月21日（月）、ペニンシュラホテル つる屋

学生会ニュース

■学生会主催新入生クラブ紹介開催

平成26年4月12日(土)午後1時より、学生会主催による恒例の新入生オリエンテーションが、さいかち坂校舎第1講義室で開催された。オリエンテーションに参加した新入生、編入学生並びに歯科衛生士専門学校生は、諸先輩方の説明を真剣に聞いて入部するクラブを考えていた。

初めに、司会者の杉浦貴則君(5年)より、学生会と東歯祭実行委員の活動内容の説明が行われた。

「入学おめでとう。私は、東歯祭実行委員として毎年東歯祭を盛り上げてきました。校舎が水道橋に移転し、規模が縮小しましたが開催に向け頑張ってきた情熱は変わりませんでした。人それぞれですが、新入生の皆さんにも同じように楽しく

充実した学生生活を送っていただきたいと思います。」と挨拶があった。続いて、石彩記子学生交流会局長(5年)から延世大学校歯科大学との交流プログラムについて説明があった。



恒例のクラブ呼び出し。先輩の待つ各クラブへ。：平成26年4月12日(土)、さいかち坂校舎第1講義室

引き続き運動系・文化系それぞれのクラブ・同好会の紹介が行われた。さいかち坂校舎でのクラブ紹介は今年で3回目となり、ほとんどのクラブが映像を使つての勧誘となったが管弦楽部とダンス部は生披露でアピールしていた。

クラブ発表は午後5時30分に終了した。恒例の呼び出しは、さいかち坂校舎でも引き継がれ、出口には各クラブの先輩が待ち受けており、所属するクラブの名前が呼ばれると大歓声が沸き起こった。今年も大盛況のうちに学生会主催新入生オリエンテーションを終えることができた。

■バドミントン部OB会総会開催

平成26年5月18日(日)に、水道橋校舎本館ミーティングルームにおいてバドミントン部OB会総会が開催された。本会では前年度の活動・会計報告、今年度の活動・会計案に加え、水道橋移転後の学生に対するサポートの仕方等について討議がなされた。また、来年度は本学がオールデンタル主幹校であるため、その開催にあたってのサポー

トについても活発に討議された。

総会終了後、東京ドームホテルにおいてOB会懇親会および学生新歓・登院コンパが開催された。本会は本年度より、学生とOBの交流の機会を増やす目的で合同開催となり、学生の活動報告や、新入生および登院生の挨拶、OBの先生方の近況報告などが行われた。本年度は新入生が8名と多く、若い力が加わり今後の部活の発展にますます期待が持てそうだ。



バドミントン部OB総会後の新人歓迎会での記念撮影：平成26年5月18日(日)、東京ドームホテル

図書館から

■本学教員著書リスト

水野嘉夫 著 歯科医師が知っておくべき全身疾患 一世出版, 2014

阿部 伸一 著 歯のしくみ 口のしくみ クインテッセンス出版, 2014

佐藤 亨 著 クラウン・ブリッジ補綴学 学建書院, 2014

○本学教員の著書についても、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

■目録データ遡及入力について

図書館では図書館のホームページから図書館資料の所蔵および配置場所が調べられるように資料を整備し、データ入力する作業を進めている。このたび、千葉校舎の教養図書約22,000冊の遡及入力(目録データ)が完了した。これにより所蔵登録している図書館全資料の蔵書検索が可能となった。今後は専門図書の複冊分、および貴重書や未整理の資料を整備していく予定である。

〈大学史料室から〉

■稀覯本の寄贈を受ける

平成26年5月17日(土)、大分県中津市在住の筒井ひとみ様(昭和54年卒の故筒井 豊先生ご令室)から、高山歯科医学院講義録を含む13冊の稀覯本が寄贈され、弥生会総会の席上で金子 譲理事長に手渡された。

寄贈図書は、講義録第1号から第10号(5号・6号を除く)、歯科手術論、解剖学講義、及び実用解剖学1巻から3巻で、豊先生のご曾祖父の澤平先生が高山歯科医学院就学中に使用されていた教科書類のようである。ご尊祖父健治先生(明治40年東京歯科医学院卒)、ご尊父嘉友先生(昭和6年東京歯科医専卒)と代々引継がれてきたが、豊先生(平成23年5月22日ご逝去)の母校に寄贈したいのご遺志により、今回大学史料室でお預かりすることとなった。

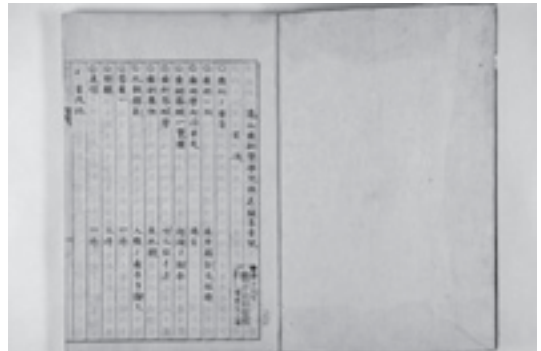
どれも明治20年代の大変貴重な医学書であり、大切に保存し後世に伝えたい。



筒井様(右)から高山歯科医学院講義録の寄贈を受ける金子理事長(左)：平成26年5月17日(土)、水道橋校舎新館第1講義室



寄贈の高山歯科医学院講義録



高山歯科医学院講義録 第1号の目次



高山歯科医学院 第1号の本文



高山歯科医学院講義録 第1号の奥付

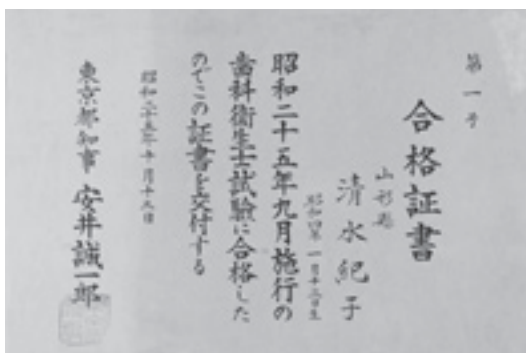


高山高山歯科医学院講義録 第2号の目次と本文

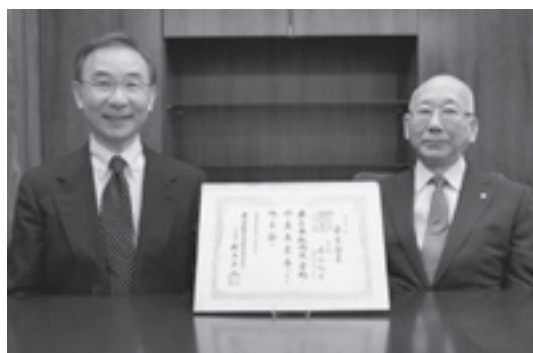
東京歯科大学歯科衛生士学校1期卒業証書ほかの寄贈を受ける

平成26年5月21日（水）、歯科理工学講座非常勤講師の長谷川晃嗣先生から、ご母堂紀子様（東京歯科大学歯科衛生士学校1期生、昭和25年8月卒）の卒業証書第一号、東京都歯科衛生士試験合格証書第一号など当時の歯科衛生士関係資料20点をご寄贈いただいた。

歯科衛生士学校に関する資料は大学史料室ではほとんど所蔵していないため、大変貴重な資料であり、大切に保管し後世に伝えたい。



第1回歯科衛生士試験合格証書（長谷川先生ご母堂様）



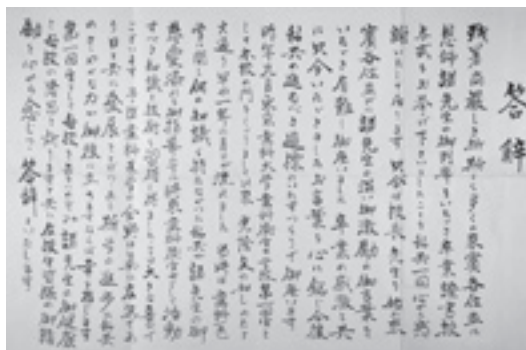
寄贈された卒業証書を前に、長谷川先生（左）と金子 謙理事長（右）：平成26年5月21日（水）、水道橋校舎本館法人役員会議室



東京歯科大学歯科衛生士学校1期卒業記念写真（前列中央 長谷川先生ご母堂様）昭和25年



東京歯科大学歯科衛生士学校第1期卒業証書（長谷川先生ご母堂様）



東京歯科大学歯科衛生士学校第1期卒業式答辞（長谷川先生ご母堂様筆）

歯科衛生士専門学校ニュース

■平成26年度歯科衛生士専門学校入学式

歯科衛生士専門学校第66期生の入学式は、4月4日（金）午前10時より、千葉校舎講堂において、御来賓、学校関係者、在校生ならびに新入生保護者臨席のもとに厳粛な雰囲気のなかで挙行された。

久永竜一学生部長の司会のもと、国歌斉唱に引き続いて、高橋俊之副校長から新入生が呼名・起立により紹介され、井上孝校長から緊張の面持ちで訓辞を受けた。続いて、金子讓学校法人東京歯科大学理事長、井出吉信東京歯科大学学長ならびに市川明美歯科衛生士専門学校同窓会会長からご祝辞をいただいた。在校生を代表して3年生

の稲毛文香さんが歓迎の辞を、次いで新入生代表の川越遥香さんが誓詞を述べた。新入生には歯科衛生士専門学校の徽章が校長より授与され、代表の宮内涼花さんの襟に輝いた。最後に在校生のリードで出席者全員が校歌を斉唱し、式は滞りなく終了した。

入学式に続き、杉山哲也教務部長から、ご臨席頂いた来賓の方々および教育に携わる教員と職員が紹介された。記念写真撮影の後、新入生たちはこれからの新たな3年間を過ごす教室に入り、学年主任・副主任から学校生活についてのオリエンテーションを受け、入学式のすべての日程を終了した。



入学式後の集合写真：平成26年4月4日（金），千葉校舎講堂

訓 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
校長 井上 孝

東京歯科大学歯科衛生士専門学校に66期生としてご入学されました50名の新生の方、本当におめでとうございます。本日は、雨かと思っていたのですが、日も差し始めまして、桜も満開の状態になっており、皆様を歓迎しているかのようです。

桜というのは、みなさんがこれから修学していき、そして最終的に3年間の間に歯科衛生士という桜を咲かせる、ということに似ているのではないかと思います。桜というのは、残念なことにこの後数日間でおそらく散ってしまう運命です。しかし、皆様方は決して散らない、散ることのない国家資格である歯科衛生士という花を咲かせて頂きたいと思います。桜というのは、散った後にすぐ芽をつけます。そして昨年を考えてみて頂くと、40℃の酷暑、また冬はマイナスになる厳寒の時期を過ぎ、また今年の1月2月の大雪に耐え、そしてこの暖かくなった3月に実を膨らませ、そして花を咲かせるわけです。このことは休眠打破と言います。皆さんも本日、東京歯科大学歯科衛生士専門学校の学生として一つの芽がついたところですよ。そして1年生の間は、今までに習ったこともないような専門的な医学的な知識について毎日勉強しなくてははいけません。そして2年生になると、今度は白衣を着て患者さんの前に出ていくこととなります。少し頭の中で思い描いてみてください、自分が白衣を着て、患者さんの前に立っている姿を。そうしますと、色々な患者さんがいます。お褒めの言葉を頂いたり、ありがとうございますという言葉、また非常に中傷される場合もあるかも知れません。そういったようなことにも耐え、さらに、3年後の国家試験のための勉強に耐え、苦難打破して初めて散らない、立派な歯科衛生士という桜の花を咲かせて頂きたいと思っています。

茶道の千利休という人がいます。彼は利休道歌という和歌を詠っています。これは我々のように教師、それから皆様方のように学生の立場の人間を詠ったものであります。「規矩作法守り尽くして、破るとも、離るとても、本を忘るな」という歌です。これは今風に言いますと守破離、つまり守る、破る、離れる、ということです。この3年間は皆さんは「守」であり、教師の教えを真摯に受け止め勉学に励んで頂きたい。そして歯科衛生士という国家資格の桜の花を咲かせた後は、そこから「破」となり自分の道を開き、最後は「離」として自分の型をつくって行って欲しいと思います。少なくともこの3年間は、どんなに辛いことがあっても教師の教えを守り、目的を達成して頂きたい。また患者さんという非常によい教師がいるわけですから、十分に活用して行って頂きたいと思っています。

医療は、病める人を治すということにあります。そしてそれは気持ち、思いやりを持って尽くすことだと思います。そのためには、自分が健康であることが第一です。そして忘れてはいけないことは、まず、ここまで育て上げて下さったご両親、保護者の方々に感謝の意、それから恩を忘れず、そのような気持ちでこの3年間を過ごして頂きたい。そしてその3年間が終わった暁には、立派で散ることのない、綺麗な桜を咲かす。そしてまた次に、色々な勤勉をして、結婚するでしょう、それから色々な地位につくでしょう、どんどんどんどん新しい桜を咲かせて行って頂ければ素晴らしい事になるのかなと思っています。

私事ですが、本日4月4日は私の母親の命日でございます。この命日の日にも非常に綺麗な桜が咲きました。若くして亡くなった母親ですが、最後に綺麗な花を咲かせ、天国にいったと信じています。これから皆さんは長い人生の中で、まず第一歩の桜を咲かせるために頑張りたいと思います。

本日は入学おめでとうございます。

誓 詞

新入生代表

川越 遙香

学校長訓辞の意を体して克く学生の本分を尽し、必ず素志を貫徹し本校の伝統を昂揚するよう努めることを堅く誓約いたします。

■歯科衛生士専門学校第1学年・第2学年学外研修セミナー開催

第1学年と第2学年合同の学外研修セミナーが平成26年5月9日(金)、10日(土)に1泊2日の日程で幕張本郷の「メイプルイン幕張」において開催された。このセミナーはコミュニケーションの基礎を習得し、周囲との協調性を高めることを目標としており、グループワークを中心とした2日間のプログラムが組まれている。

初日は午前10時より開講式が始まり、井上 孝校長から本セミナーの趣旨が説明された。そして、最初に1、2学年合同のコミュニケーショントレーニングが行われた。このプログラムは、グループでの効果的な協同作業のあり方や、1つ1つの情報の重要性を学ぶために実施されている。80分間の短い時間ではあったが、各班とも皆で協力し合い、一生懸命取り組んでいた。にぎやかな昼食ののち、1年生は入学式の折、校長先生から新入生を桜の木に喩えた訓辞を受けたことから「散らない桜を咲かせるにはどうしたらよいか」、2年生は「自分がDHであることを尊敬できるためにはどうしたらよいか」をテーマとして、学年毎に6～7班に分かれてKJ法によりグループディ

スカッションを行い、その結果をまとめて発表した。その後、井上先生により「味覚」をテーマとした講義が、スライドと板書によってそれぞれ行われた。その講義ノートは、夕食後のプログラムである「分かりやすいまとめノートを作るための、授業中のノートテイキングのコツ」を検討するための、資料として使われることになる。続いて「口腔清掃用具に関する報告」と題して、8つのグループが歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、洗口剤、歯磨剤など、歯科保健指導に用いる身近な口腔清掃用具について、調査結果の発表が行われた。やっと学校生活に慣れはじめたばかりの1年生も、興味深く耳を傾け、質問をする姿も見られた。スライドの他にも自分達で作成した模型を使い報告を行うなど、様々な工夫が見られた。その後、夕食のエビフライとハンバーグを全員で食べて一息ついた後、先程の井上先生の講義ノートをもとに、1、2学年合同の12班に分かれてノートテイキングについてのグループディスカッションが行われた。夜の各学年のミーティングの後、各班午後10時まで熱い議論を続け、研修第1日目の日程を終了した。

2日目、朝7時の朝食後、昨日の疲れを感じさ

せない元気な顔で8時30分から、前日の夜にまとめた「分かりやすいまとめノートを作るための、授業中のノートテイキングのコツ」の発表が各班で行われた。いずれの班も、いろいろなアイデアを盛り込みながら、自分達の結論をしっかりと発表していた。そして最後に杉山哲也先生から「東大合格生のノートはかならず美しい」という本の紹介を含めたノートテイキングの講義があった。

その後、久永竜一先生の司会のもと閉講式が始まった。まず高橋副校長から研修の成果についてのご挨拶があり、前日のコミュニケーショントレーニングで優秀な成績を取めた班への表彰式などが行われた。そして研修の最後に、全員で校歌

を斉唱し、全ての日程が終了した。



活発なグループディスカッション：平成26年5月9日（金）、メイプルイン幕張



1・2年生全員での集合写真：平成26年5月9日（金）、メイプルイン幕張



工夫を凝らしたプレゼンテーション：平成26年5月9日（金）、メイプルイン幕張

平成 26 年度学生数一覧

東京歯科大学

学年	男	女	計	班分け	欠番	休学者
1年	59	73	132	A班：No. 1～66 B班：No. 67～133	133	
2年	72	73	145	A班：No. 1～72 B班：No. 73～145		
3年	83	66	149	A班：No. 1～75 B班：No. 76～151	47 82	151
4年	67	62	129	A班：No. 1～64 B班：No. 65～129		
5年	79	60	139	A班：No. 1～24 B班：No. 26～48 C班：No. 51～73 D班：No. 76～98 E班：No.101～123 F班：No.126～148	25 49 50 74 75 99 100 124 125	
6年	84	47	131			
合計	444	381	825			

平成26年5月1日 教務課

人物往来

■国内見学者来校

水道橋校舎・水道橋病院

- 東京歯科大学七十七期会(昭和47年卒)(第七十七期生60名)
平成26年4月19日(土)水道橋校舎新館見学
- 東京歯科大学第八十四期弥生会(昭和54年卒)(第八十四期生48名)
平成26年5月17日(土)水道橋校舎新館および、水道橋病院見学

市川総合病院

- 社会福祉法人 読売光と愛の事業団(福祉助成部長1名、事業課長1名)
平成26年4月22日(火)角膜センター見学
- エースデンタルクリニック(歯科医師1名、歯科衛生士2名)
平成26年5月8日(金)、15日(金)歯科・口腔外科見学
- 神奈川歯科大学附属横浜クリニック(4名)
平成26年5月14日 電子カルテシステム見学

■海外出張

- 園分克寿助教(臨床検査病理学)
Dana-Farber Cancer Institute においてエクソソームに反映されたがん特異的代謝変化を利用する診断法の確立についての共同研究のため、平成26年4月1日(火)アメリカ・ボストンへ出張。帰国は平成27年3月31日(月)の予定。
- 申 範圭教授、高木秀暢助教(市病・心臓血管外科)
22nd Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (第22回アジア心臓血管外科学会)において参加、および発表を行うため、4月2日(水)から7日(月)までトルコ・イスタンブールへ出張。
- 白石 建教授、青山龍馬助教、二宮 研助教、海苔 聡助教(市病・整形外科)
5th cervical spine research society-Asia Pacific section (第5回国際頸椎外科学会アジア太平洋セクション)において参加、および発表を行うため、白石 建教授は4月2日(水)から7日(月)まで、青山龍馬助教、海苔 聡助教は4月3日(木)から6日(日)までベトナム・ホーチミンへ出張。
- 片倉 朗教授、浮地賢一郎助教、三邊正樹レジデント、村上正治大学院生(市病・オーラルメディスン・口腔外科学)、河野通良講師(市病・皮膚科)
Frontiers in Oral Medicine 2014において参加及び発表を行うため、河野通良講師、浮地賢一郎助教、三邊正樹レジデント、村上正治大学院生は4月9日(水)から14日(月)まで、片倉 朗教授は4月10日(木)から14日(月)までアメリカ・オーランドへ出張。
- 中川 健教授(市病・泌尿器科)
The 3rd International Forum on Frontiers in Urology (IFFU)において招待講演のため、4月18日(金)から20日(日)まで中国・北京へ出張。
- 高野正行准教授(口腔外科学)
The 55th Congress of Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons (第55回大韓口腔外科学会)にて招待講演のため、4月24日(木)から26日(土)まで韓国・釜山へ出張。
- 兼子 智講師(市病・産婦人科)
BIT 3rd Annual Conference and EXPO of Analy-tix2014において参加、および発表を行うため、4月24日(木)から27日(日)まで中国・大連へ出張。

- 森川泰紀大学院生(歯科矯正学)
American Association of Orthodontic 114th Annual Session において参加、および発表を行うため、4月25日(金)から30日(水)までアメリカ・ニューオーリンズへ出張。
- ビッセン弘子教授(水病・眼科)
American Society of Cataract and Refractive Surgery (アメリカ白内障屈折矯正手術学会)において参加、および発表を行うため、4月25日(金)から30日(水)までアメリカ・ボストンへ出張。
- 佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴学)
American Academy of Cosmetic Dentistry (アメリカ歯科審美学会) 30回オーランド大会2013での講演・会議のため、4月28日(月)から5月5日(月)までアメリカ・オーランドへ出張。
- 高松 潔教授、小川真里子講師(市病・産婦人科)
14th World Congress on the Menopause (第14回国際閉経学会)において参加、および発表を行うため、高松 潔教授は4月30日(水)から5月6日(火)まで、小川真里子講師は5月1日(木)から6日(火)までメキシコ・カンクンへ出張。
- 鳥崎 潤教授、佐竹良之講師、山口剛史助教、平山裕美子助教、三田村浩人臨床専修医(市病・眼科) 比嘉一成助教(角膜センター)
The Association for Research in Vision and Ophthalmology (眼科国際学会) Annual Meeting 2014において参加及び発表を行うため、佐竹良之講師、山口剛史助教、三田村浩人臨床専修医は5月3日(土)から8日(木)まで、鳥崎 潤教授、比嘉一成助教は5月3日(土)から9日(金)まで、平山裕美子助教は5月3日(土)から10日(土)までアメリカ・オーランドへ出張。
- 坂本輝雄講師(歯科矯正学)
4th International Congress on Craniofacial Osteology & Distraction (Distraction2014) において参加、および発表を行うため、5月5日(月)から11日(日)までモルディブ・マレへ出張。
- 馬場 亮助教、山添真治助教(市病・放射線科)
11th Asia-Pacific Congress of Cardiovascular and Interventional Radiology (APCCVIR2014) において参加、および発表を行うため、5月14日(水)から18日(日)までシンガポールへ出張。
- 片倉 朗教授(市病・オーラルメディスン・口腔外科学)
BIT's 7th Annual World Cancer Congress 2014において参加、および発表を行うため、5月15日(木)から18日(日)まで中国・南京へ出張。
- 田中一郎教授(市病・形成外科)
The 12th Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (第12回日韓形成外科学会)において参加、および発表を行うため、5月15日(木)から18日(日)まで韓国・仁川へ出張。
- 小坂橋俊哉教授(市病・麻酔科)、佐塚祥一郎助教(歯科麻酔学)
Euroanaesthesia2014 (ヨーロッパ麻酔学会) において参加、および発表を行うため、5月30日(金)から6月4日(水)までスウェーデン・ストックホルムへ出張。

大学日誌

平成26年4月

- 1 (火) 専任教員(准教授以下)辞令交付式
RR・PF・RA・TA辞令交付式
新1年生・編入学生オリエンテーション(1日目)
防火・防災安全自主点検日
正職員辞令交付式(千病)
歯科臨床研修開始(千病)
レジデント辞令交付式(千病)
歯科臨床研修医辞令交付式(千病)
採用者辞令交付式(市病)
辞令交付(水病)
歯科医師臨床研修開始式(水病)
- 2 (水) 1年生フレッシュマンセミナー
リスクマネージメント部会(千病)
ICT会議(千病)
- 3 (木) 2年生オリエンテーション
3年生オリエンテーション
4年生オリエンテーション
カルテ指導委員会(千病)
感染制御委員会・ICT委員会(市病)
プログラム委員会(市病)
病院運営会議(臨時)(水病)
- 4 (金) 2・3・4年生前期授業開始
- 5 (土) 平成26年度入学式
- 7 (月) 1・2年生健康診断
1年生オリエンテーション(第2日目)
5年生オリエンテーション
大学院入学式
歯科衛生士専門学校2年生前期授業開始
歯科衛生士専門学校1年生オリエンテーション
[～8日]
臨床研修管理小部会(千病)
- 8 (火) 1年生前期授業開始
購買委員会(市病)
給食委員会(水病)
- 9 (水) 2・5年生HBワクチン接種
歯科衛生士専門学校1年生前期授業開始
救急委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
医薬品安全管理委員会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病)
栄養委員会(市病)
- 10 (木) 午後のリサイクル(市病)
手術室運営委員会(市病)
- 11 (金) 感染予防対策チーム委員会(水病)
- 12 (土) 学生会主催オリエンテーション
- 14 (月) 臨床教育委員会
千葉病院協議会(千病)
個人情報保護委員会(千病)
感染予防対策委員会(ICC)(千病)
医療安全管理委員会(市病)
- 15 (火) 臨床教授連絡会
全体教授会
人事委員会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
歯科衛生士専門学校教員会
臨床修練委員会(千病)
瘡対策委員会(水病)
- 16 (水) 5年生(121期)登院式
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
国際交流部運営委員会
褥瘡対策委員会(市病)
CPC(市病)
- 17 (木) 6年生オリエンテーション
業務連絡会(千病)
高度・先進医療委員会(千病)
部長会(市病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
病院運営会議(水病)
医療安全管理委員会(水病)

- 18 (金) 衛生委員会
医療連携協議会(千病)
災害対策委員会(市病)
- 19 (土) CBTを利用した国試等の現状把握
患者サロン(市病)
第13回試験問題作成に関するワークショップ
- 20 (日) 第132回歯科医学教育セミナー
- 21 (月) 教務部事務連絡会
機器等安全自主点検日
千葉病院研修会(千病)
- 22 (火) 薬事委員会(千病)
データ管理者会議(千病)
カルテ整備委員会(千病)
診療記録管理委員会(千病)
医療サービスに関する検討会(千病)
- 23 (水) 糖尿病教室(市病)
糖尿病教室カンファレンス(市病)
データ管理者会議(水病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)
- 24 (木) 倫理委員会・利益相反委員会
管理診療委員会(市病)
- 26 (土) CBTを利用した国試等の現状把握
- 28 (月) NSTカンファレンス(市病)
教職員研修会(水病)
- 30 (水) 1～4年生休講日[～5/2]

平成26年5月

- 1 (木) 1～4年生休講日[～5/2]
防火・防災安全自主点検日
カルテ指導委員会(千病)
感染制御委員会・ICT委員会(市病)
治験・倫理審査委員会(市病)
プログラム委員会(市病)
- 7 (水) 新入生学外セミナー[～9日]
リスクマネージャー・ICT会議(千病)
衛生委員会(市病)
感染予防対策チーム委員会(水病)
薬事委員会(水病)
- 8 (木) 手術室運営委員会(市病)
- 9 (金) 2～4年生振替授業(火曜日分)
歯科衛生士専門学校1・2年生学外研修セ
ミナー[～10日]
受変電設備定期点検-停電(研究資料棟講堂)
(千病)
電気設備法定点検-停電(新館学生交流棟)
受変電設備定期点検-停電(教養棟、実験動物
施設、研究資料棟、厚生棟、図書館、体育館、
部室合宿棟)(千病)
受変電設備定期点検-24時間停電(全館)
(千病)
停電[一般系](市病)
- 11 (日) 受変電設備定期点検-24時間停電(全館)
(千病)
- 12 (月) 公認会計士決算監査[～13日](千病)
臨床研修管理小部会(千病)
公認会計士決算監査[～14日](市病)
- 13 (火) 購買委員会(市病)
- 14 (水) 第1・4学年HBワクチン接種
情報システム管理委員会
公認会計士決算監査[～26日]
救急委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
臨床検査室委員会(水病)
- 15 (木) 第3・4・5・6年生定期健康診断
5年生全体集合
Elective Study説明会(5年生等)
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
部長会(市病)
診療録指導委員会(水病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)

15 (木)	病院運営会議(水病)	21 (水)	CPC (市病)
16 (金)	災害対策委員会(市病)	22 (木)	教養科日協議会
17 (土)	平成26年度 臨床研修歯科医師研修会 患者サロン(市病)		業務連絡会(千病)
19 (月)	臨床教育委員会 教務部(課)事務連絡会 千葉病院協議会(千病)		高度・先進医療委員会(千病)
	個人情報保護委員会(千病)	23 (金)	管理診療委員会(市病)
	医療安全管理委員会(千病)	26 (月)	研修管理委員会(水病)
	感染予防対策委員会(ICC)(千病)		衛生委員会
	医療連携委員会(千病)		平成26年度教職員健康診断[～30日]
	千葉病院研修会(千病)		第133回歯科医学教育セミナー
	医療安全管理委員会(市病)		研究室委員会(市病)
	薬事委員会(市病)	27 (火)	NSTカンファレンス(市病)
20 (火)	臨床教授連絡会		診療記録管理委員会(千病)
	講座主任教授会	28 (水)	大学院新入生学外総合セミナー [～30日]
	人事委員会		倫理委員会・利益相反委員会
	国際交流部運営委員会		図書委員会
	機器等安全自主点検日		糖尿病教室(市病)
	歯科衛生士専門学校 臨床実習委員会		糖尿病教室カンファレンス(市病)
	地域連携委員会(市病)		業務連絡会(水病)
21 (水)	基礎教授連絡会		データ管理者会議(水病)
	大学院運営委員会		医局長会(水病)
	大学院研究科委員会		診療録管理委員会(水病)
	輸血療法委員会(市病)	29 (木)	理事会、評議員会
	褥瘡対策委員会(市病)	31 (土)	歯科衛生士専門学校 学校説明会

東京歯科大学血脇記念ホール及び会議室等使用規程

平成26年4月1日
制定

(目的)

第1条 この規程は、東京歯科大学水道橋校舎新館血脇記念ホール、水道橋校舎新館2階会議室及び3階史料室(以下「血脇記念ホール等」という)の使用に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(用途)

第2条 血脇記念ホール等は、本学の行事に使用する。ただし、本学の行事に使用しない場合、学長が認めたときに限り学外者に貸与することができる。

2 2階会議室、3階史料室は、単独での貸出しをしない。ただし、学長が認めたときに限り貸与することができる。

(使用申込み)

第3条 血脇記念ホール等の使用申込みは原則として6ヵ月前の1日より受付を開始する。

(使用の許可及び取り消し)

第4条 血脇記念ホール等の使用を希望する者は、別紙様式による「血脇記念ホール使用願」を使用日の1ヵ月前までに提出し、その許可を得なければならない。

2 つぎの各号のいずれかに該当するときは使用を許可しない。また、使用許可後、若しくは使用中であってもその許可を取り消すものとする。

- (1) 本学の使用に支障があるとき
- (2) 使用目的・内容が不相当と認められるとき
- (3) 使用目的・内容を主催者が勝手に変更したとき
- (4) 本規程に違背したとき
- (5) 天災等による事故発生のおそれがあるとき
- (6) その他使用を認めがたい事情が生じたとき

(使用時間)

第5条 血脇記念ホール等の使用は9時から20時までとする。ただし、特別の事情があるときは、21時まで延長して使用を認める。

(使用料)

第6条 血脇記念ホール等の使用料は別表のとおりとする。

- 2 血脇記念ホール等の使用料に関し本学が特別の事由があると認めたときは、これを減額または免除することができる。
- 3 血脇記念ホール等の使用取り消しの場合は、別表のとおりキャンセル料を徴収する。

(損害の弁償)

第7条 使用者が建物、諸設備等を滅失、毀損したときには、その損害を弁償しなければならない。

(使用心得)

第8条 血脇記念ホール等の使用にあたっては、本規程を遵守し、許可条件及び指示等は忠実に履行するとともに次の行為をしてはならない。

- (1) 喧噪にわたる等本学の運営や他に迷惑を及ぼす言動
- (2) 引火物の持ち込み
- (3) 喫煙・飲食
- (4) 建物や付帯設備、床等を汚染・損傷するような器物の持ち込み、履物の使用
- (5) 照明卓、AV機器、音響ミキサー等の初期設定の無断変更

2 血脇記念ホール等においてつぎの行為を行うときは、申込み時に大学事務局庶務課に届け出なければならない。

- (1) 掲示または展示するとき
- (2) 他から器物を搬入するとき
- (3) 施設内の器物を移動し、または搬出するとき

3 使用責任者は、使用後の清掃・火気の始末等を確実にし、使用前の状態に戻しておくこと。

4 駐車場の使用はできない。

(免責事項)

第9条 つぎの各号のいずれかに該当するときは、本学はその損害について責任を負わないものとする。

- (1) 天災、火災、その他不可抗力により利用が困難になった場合のその利用に際する一切の損害
- (2) 使用者が本規程に違背したため使用を謝絶することによって生じた一切の損害
- (3) 使用者および第三者の所有物や現金等の貴重品、その他これらに類する物の盗難・毀損による一切の損害

(事務の処理)

第10条 血脇記念ホール等の使用に関する事務は、大学事務局庶務課が処理する。

(規程の変更)

第11条 この規程の変更は、学長の承認を得なければならない。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日から実施する。

2 従前の「東京歯科大学血脇記念ホール及び会議室使用規程」(平成5年1月12日制定)、「東京歯科大学血脇記念ホール及び会議室使用心得」(平成5年1月12日制定)、「東京歯科大学血脇記念ホール及び会議室貸与規程」(平成5年1月12日制定)は廃止する。

別紙様式 略

(別 表)

1.施設使用料金の支払いについて

「血脇記念ホール使用願(別紙様式)」を使用日の1ヶ月前までに大学事務局庶務課に申請する。施設の使用が認められた場合、大学事務局会計課より「請求書」を発行するので、納付期限(使用日の15日前)までに本学の指定する金融機関口座へ使用料金(消費税込)を振り込む。

納付期限までに支払いがない場合、予約をキャンセルしたものとする(2.キャンセルについて参照)。

施設の使用料金は、以下の水道橋校舎新館 血脇記念ホール等の施設使用料金表(消費税別)のとおりとする。

*水道橋校舎新館 血脇記念ホール等の施設使用料金表(消費税別)

区 分	使用時間	時間数	血脇記念ホール	2階会議室	3階史料室
全 日	9:00～20:00	11h	500,000円	50,000円	50,000円
1 区	9:00～13:00	4h	200,000円	20,000円	20,000円
2 区	13:00～17:00	4h	200,000円	20,000円	20,000円
3 区	17:00～20:00	3h	150,000円	15,000円	15,000円
延 長	20:00～21:00	1h	75,000円	7,500円	7,500円

- 【注】 1)2階会議室、3階史料室のみの貸出は行わない。
 2)使用時間は準備・後片付け等一切の時間を含む。
 3)光熱水費、付帯設備使用料、清掃料等は上記料金に含まれる。
 4)振込手数料は使用者負担とする。

2.キャンセルについて

キャンセル(使用取消)の場合、使用日の15日前までに大学事務局庶務課に届け出をする。使用日の14日前からキャンセル料が発生し、以下のとおりキャンセル料を支払わなければならない。また、納付期限(使用日の15日前)までに指定金融機関へ使用料金の入金がない場合は、使用をキャンセルしたものとみなし、以下のとおりキャンセル料を支払わなければならない。

ただし、天災その他使用者の責によらない事由により施設を使用できなくなった場合は全額返金する。

*キャンセル料(消費税別)

使用日の14日前から8日前までのキャンセル	施設使用料金の20%
使用日の7日前から2日前までのキャンセル	施設使用料金の50%
使用日の前日及び当日	施設使用料金の全額

- 【注】当日連絡なく使用しなかった場合は、キャンセル料を100%支払わなければならない。

〔訂正〕

第265号の記事中に次の間違いがありましたので、お詫びして訂正致します。

23頁 水口 清教授、花岡洋一准教授 千葉県警察から感謝状を贈呈される
(誤)平成25年3月25日(火)付で→(正)平成26年3月25日(火)付で

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 鎌田美樹 椎名 裕 中村弘明
日塔慶吉 旗手重雅 久永竜一 藤倉隆行 前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹
渡辺 賢 (平成26年5月現在)



編集後記

平成26年4月5日、水道橋校舍新館。新しい血協記念ホールで行なわれる最初の記念すべき入学式。静まりかえった会場を埋める父兄と教職員の視線の先には、緊張した面持ちで呼名を受けて立ち上がり学長に挨拶する、128名の第125期新入生と、15名の第2学年編入生がいます。

「人生の中で最も華やかで大切な6年間、勉強もクラブ活動も熱い思いで取り組み、充実した学生生活を送り、東京歯科大学の卒業生であることを誇りに、世界の歯科界をリードする人材となっていくことを期待する。」との井出学長の言葉を胸に、このひと時に出会った同期の仲間たちと、互いに協力し、励ましあいながら、立ちただかる幾多の試練を一緒に乗り越えていく新入生たちの6年間が始まります。

明治20年代に使われた高山歯科医学院の講義録。発行人・高山紀斎。歯科手術論、解剖学講義、歯科薬物学講義…。墨書された和紙の中に、今も受け継がれている当時の近代歯科医学の先端技術が、一字一字綴られています。その内容の正確さに対する驚き。学問の進歩は、確かな基礎の上に築かれていくという事実がそこにあります。

(広報・公開講座部長：橋本貞充)



「目角坂の春」

春のほんの短いあいだ。新入生達を祝うように、目角坂が赤く縁取られます。蒼々と茂るベニバナトチノキの葉と、対比する鮮やかな紅蓮の花びらの重なり。坂の上、街灯が建てられたアテネ فرانセの一角は、一瞬、東京のまん中にあることを錯覚させます。春、すべての始まりの季節。